

土木委員会会議記録（第4号）

令和6年 3月12日

福島県議会

1 日時

令和6年 3月12日（火曜）

午前 10時58分 開議

午前 11時50分 散会

2 場所

土木委員会室

3 会議に付した事件

別添「議案付託表」（第1号に添付）のとおり

4 出席委員

委員長	佐藤 義憲	副委員長	佐々木 恵寿
委員	瓜生 信一郎	委員	安部 泰男
委員	矢吹 貢一	委員	先崎 温容
委員	三瓶 正栄	委員	山口 洋太
委員	吉田 誠	委員	石井 信夫

5 議事の経過概要

（午前 10時58分 開議）

佐藤義憲委員長

ただいま出席委員が定足数に達しているので、これより土木委員会を開く。

これより一般的事項に対する質問に入る。

質問のある方は発言願う。

三瓶正栄委員

橋梁やトンネルの老朽化について、1月25日の民友新聞の社説に掲載されていた。高度経済成長期に工事が行われ、20年後には建設後50年以上を経過することとなると思うが、県民の安全・安心の確保のために今後どのように取り組んでいくのか。

道路計画課長

橋梁については昭和40～50年代に架けられた橋が多く、約4,500橋ある県管理の橋梁のうち約4割が建設後50年を経過しており、20年後にはこれが約8割になる。管理者としてこの課題を重く受け止めており、定期的な点検と修繕のメンテナンスサイクルを確立すべく取り組んでいる。

具体的には、平成26年から5年に1度の定期点検を行うこととしており、30年にかけて実施した1巡目の点検では、橋梁やトンネル、スノーシェッド等の構造物において、早期または緊急的な措置が必要な箇所を925か所確認している。現時点でこれら全ての修繕に着手し、令和7年度までに完成させる目標で整備している。今年度には2巡目の点検が終了する予定であり、今後は要修繕箇所の措置を計画的に進めていく。

三瓶正栄委員

県内の道路や橋梁の大部分は市町村が管理しているが、それらの老朽化対策の取組状況についても説明願う。

道路計画課長

市町村が管理する橋梁、トンネル等も県と同じ期間で点検を行っており、1巡目の点検では1,198橋、14か所のトンネル、15か所の道路附属物について早期または緊急的な措置が必要との判定を受けている。そのうち60%の橋梁、57%のトンネル、67%の道路附属物の修繕に着手している。県としては、市町村に対する技術的な助言や予算の確保について支援していく。

三瓶正栄委員

財政的に大変厳しい市町村もある。橋梁などの点検や補修について、県として小規模な自治体を支える必要があると思うが、どうか。

道路計画課長

市町村は管理している構造物が多く、技術者不足も課題であるので、道路メンテナンス会議を通じた人材育成や日頃の相談に対する技術的な支援、市町村等を対象に毎年実施している講習会等により、市町村が適正に管理できるよう支援していきたい。

三瓶正栄委員

先般、47都道府県の中で技術職員の採用予定数を満たしているのは大阪府と兵庫

県のみとの報道があった。12月定例会の委員会でも指摘したが、人口減少社会においてこれまでの住民サービスの維持が困難となる中、人材確保は大変重要な課題であると認識している。本県技術職員が5年連続で定数に満たない状況は改善していかなければならないが、その辺りはどうか。

土木総務課長

県の技術職員の確保については、県職員採用試験の受験者の確保がまず大事であるほか、震災からの復旧・復興業務に係る他県からの応援職員や任期付職員など、複合的に取り組みながら様々な形で職員の確保に努めている。今年度は特に、業界の全国誌や大手転職サイトを活用した採用試験のPRに取り組んでおり、これまでの取組に加え他自治体の取組等も取り入れながら、しっかり確保できるよう努めていきたい。

三瓶正栄委員

本当に大事なことであるため、優秀な技術系職員を継続的に確保できるよう今後ともしっかり取り組んでほしい。

次に、令和6年能登半島地震について、部長から土木部のこれまでの経過と現在の職員派遣の状況について説明を受けたが、今後の見通しを聞く。

土木企画課長

石川県には現在2名の職員を派遣している。一方、本県においても、今年度は神奈川県や東京都から11名の職員を土木部に派遣してもらっている。先の見通しは立っていないが、石川県等から要請があればできる限り支援していきたい。

三瓶正栄委員

能登半島地震から丸2か月が経過したが、被災地では上下水道の復旧が遅れている。石川県によると1万8000戸で断水が続いており、いまだ不自由な生活が強いられているという。本県の下水道施設の耐震化率は全国の中でも非常に高いようであるが、まだまだ課題もあると思うので、耐震化率の状況を聞く。

下水道課長

令和6年能登半島地震による下水道施設の被害について、国土交通省の最新の情報によると、被災した処理場・ポンプ場施設は全て機能確保済みであるが、管路施設についてはいまだ点検中の市町村も多いようである。

本県の流域下水道施設については、処理場・ポンプ場施設、管路施設ともに優先

順位をつけて耐震化工事を進めており、令和4年度末の耐震化率は管路が90%、処理場・ポンプ場が75%である。現在、5年度の国補正予算によって県北浄化センターの汚泥処理設備の耐震補強工事や管路の耐震設計などを予定しており、契約手続を進めている。

三瓶正栄委員

本県の耐震化率を再度説明願う。

下水道課長

4年度末の耐震化率は、管路で90%、処理場・ポンプ場で75%である。

三瓶正栄委員

ホームページで紹介されているが、私の地元の国道288号船引バイパスは工事の進捗率が82%まで進んでいる。一方、住民からは、郡山市、田村市、双葉町の物流や経済に大きく関わる郡山市富久山町福原地内を早期に4車線化すべきとの声があるが、県として今後どのように整備を進めていくのか。

道路整備課長

国道288号富久山バイパスについては、全体計画で延長1.7kmの4車線化事業を進めているところである。これまで、阿武隈川を渡る富久山大橋220mを含む工区全体の東側約1kmの区間について整備を進め、昨年3月に4車線化が完了し供用を開始した。現在は残る西側区間の用地取得に取り組んでおり、取得率100%になるよう引き続き買収を進めていく。

三瓶正栄委員

早期供用開始及び全線開通を期待しているので、しっかり対応願う。

次に、建設業における担い手の確保が大変重要な課題であると思っているが、今年度の実績について聞く。

建設産業室長

ふくしま建設業振興プランに基づき各種施策を実施しており、まず、小学5、6年生を対象として、重機の搭乗体験やドローンの操作体験など、記憶に残る体験型の現場見学会を県内各方部で実施し、延べ7校105名の児童が参加した。また、子供の職業選択に親の影響が大きいことを考慮した親子現場見学会を県内2か所で開催し、13組28名が参加した。さらに今年度は、地元の若手技術者と仕事の内容や魅力を伝える学校説明会を会津方部の4つの高校で開催した。そのほか、2名の女性

若手技術者が建設業へ就職した理由ややりがい、学生へのメッセージなどを伝えるPR動画を制作し配信するなど、建設業のやりがいや魅力を若者に伝える積極的な広報活動を実施している。

三瓶正栄委員

これからは汚い、きつい、危険の悪い3Kではなく、給料がよく、休日が取れ、希望を持てる魅力ある3Kとして、若い人材が集まることを期待している。大変だと思うが、関係機関と連携しながら引き続き努力するよう要望する。

次に、ここ数年は豪雨災害が激甚化、頻発化し、毎年のように発生している。浸水被害対策として、ハード整備は時間がかかるためソフト整備が大切だと思うが、どのように取り組んでいくのか。

河川整備課長

激甚化、頻発化する自然災害への対応として、流域治水の考え方にに基づき、河道掘削や河川改修のハード整備に加え、浸水想定区域図の作成及び公表、危機管理型水位計や河川のリアルタイムの状況を確認できる監視カメラの設置等のソフト対策に取り組んでいる。具体的には、住民の防災意識の向上につなげるため、住宅や要配慮者施設のある県内440の河川の浸水想定区域図を公表し、浸水の危険性を周知している。また、住民が的確に避難の判断ができるよう、危機管理型水位計及び河川監視カメラの設置拡大を図っている。

三瓶正栄委員

県民の安全・安心確保のために部を挙げてしっかり取り組むよう要望する。

山口洋太委員

今定例会の一般質問において、道路や渋滞に係る質問が多く上がったと思う。その中で、安達ヶ原入口交差点の渋滞緩和に向けた取組に関する石井議員の質問に対し、部長は国や市町村と福島県渋滞対策連絡協議会で協議していくと答弁した。実際に協議資料を確認したが、県内の渋滞に関する様々なデータや取組が分かりやすく記載されており、県民の安全・安心につながっていると思った。

安達ヶ原入口交差点については昨年8月の段階で協議されており、実態調査等で渋滞の要因も分かっていると思う。事故も起きているようなので早期に対応すべきと思うが、具体的にどう対応するのか。

道路計画課長

安達ヶ原入口交差点については、国道4号の交通量がかなり多く、そこに県道と市道が交差しており交差形状が非常に悪い上、国道4号と市道に信号があるなど、幾つかの複雑な要因が渋滞の原因であるとして、協議会で分析と共有を進めている。これまでも信号の現示などにより対応しているが、国道4号の渋滞を解消しようとするとう県道の渋滞が激しくなり、県道の渋滞を解消しようとするとう国道4号の渋滞が激しくなるため、それぞれの道路管理者である国及び市と具体的な解決策を検討している。

先崎温容委員

福島県復興祈念公園の整備に当たり、どのような点に力を入れているのか。

まちづくり推進課長

令和7年度の完成を目標に園内の造成工事や橋梁工事などを進めており、6年度は管理棟の工事に着手する。近隣に東日本大震災・原子力災害伝承館や震災遺構の請戸小学校があるので、近隣施設と連携した震災の記憶の伝承など、開園に向けて準備を進めている。

先崎温容委員

関係機関と連携して進めることは、本当に大事だと思っている。福島県復興祈念公園に集約された本県の復興の軌跡や熱量、思いなどが、開園を通して世界中から注目されると思う。

土木部がインフラ整備を実施する中で、他部局の熱量も含めた集大成にすることが望ましいと思うが、どうか。

まちづくり推進課長

伝承や復興に関する施設の整備は県が、追悼と鎮魂をつかさどる空間の整備は国が進めており、これから国で建築工事に着手する。国や双葉・浪江両町長、大学教授等の関係有識者から意見を聞きながら、園内のデザインなどの詳細な検討を進めている。

先崎温容委員

東日本大震災や原発災害からの復興について、世界に向けた発信力のある公園にしてほしい。

元気ふくしま地域づくり交流促進事業については、単に防災・減災に係るインフラ整備だけでなく、コミュニティーの再生や維持においても実績を上げていると聞

いている。参考までに、これまでの成功事例や次年度に注力する点について聞く。

まちづくり推進課長

元気ふくしま地域づくり交流促進事業では、河川や親水施設、ポケットパーク、自転車利用空間、観光資源である只見線沿線の美しい景観を眺望できる視点場などの整備を行っている。視点場については、眺望をよくするための伐採などを実施しており、多くの観光客に利用されていると思う。

本事業は平成16年度の着手以降、県内約100地区で実施しており、地元住民からも好評で協力を得ながら進めている。令和6年度は、県道372号須賀川二本松自転車道線を乙字ヶ滝から阿武隈川沿いに北へ向かって整備しており、自転車が利用しやすいように標識や道路標示を設置する予定である。

先崎温容委員

当該事業は私の地元からも好評である。ハード面のみならずインフラツーリズムも含めてソフト面で交流を深めていくことにより、結果的には土木職の確保につながる可能性もある。土木部が新しい分野に携わる中で、少しひねりを加えることで皆のためになる可能性を秘めているため、引き続き推進を図ってほしい。また、その都度委員会に実績を示してもらうことで我々もPRできるので、よろしく願う。

近年、建設DXの推進が求められていると思う。セミオートもしくは無人の重機やドローンなどに力を入れて新年度予算を確保しているが、現在のレベルと今後注力する分野について聞く。

技術管理課長

建設DXの推進であるが、ICT活用工事により生産性や安全性を高めていく取組を進めている。今年度は50件ほど実施したが、1月以降に公告した土工事においては、対象を1万㎡以上から5,000㎡以上に緩和し、さらなる拡大を図っている。令和6年度は、この取組の実績を高めていくとともに、ソフト対策として人材育成及び新たな機器の購入を支援する事業を拡大するなど、建設業の支援に取り組んでいきたい。

先崎温容委員

デジタルを駆使することで様々な可能性が広がるが、コストも高いのが現状だと思う。費用対効果の問題があるが、デジタル分野においては大企業や産学官連携に係る大学などの研究機関とどのように連携しているのか。

技術管理課長

人材育成としては、専門機関から最新の技術レベルを持つ講師を招いて企業に派遣する支援を行っている。また、県発注工事で活用する機器の経費を設計額に計上するなど、受注者の負担を極力緩和する取組を進めている。

先崎温容委員

デジタル関係であれば、デジタル変革課や商工労働部所管のハイテクプラザなど様々な部局が関わってくる。実際にスマート農業の分野では、農業総合センターとハイテクプラザが意思疎通を図って取り組んでいると聞いている。例えば、関係部局との横断的な連携により、通常数千万円かかる既存重機のCPU改造を数百万円で実施するなど、既存の資源を生かす取組を他部局の研究機関も巻き込んで進めていくことが必要だと思うが、どうか。

技術管理課長

目覚ましい速度で進む技術革新の状況をしっかりつかむとともに、ICT関係業務を担当している部局と幅広く連携や情報共有を図り、建設の分野で採用できることは積極的に取り組んでいきたい。

佐藤義憲委員長

ほかにないか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

佐藤義憲委員長

なければ、以上で一般的事項に対する質問を終結する。

本日は、以上で委員会を終わる。

明3月13日は現地調査を行うので、委員は作業服を着用の上、午前9時30分までに本庁舎東玄関に参集願う。

3月18日は総括審査会終了後に委員会を開く。

審査日程は、議案の採決である。

これをもって散会する。

(午前 11時50分 散会)